

ワールドワイド携帯電話四半期動向

2018年2月15日報告

■ 2017年4Qの世界のSmartphone市場概況 ■

2017年4Qの端末販売状況

10-12月期のSmartphoneの販売台数は前期に対して微増に留まり、前年同期比では9%減と大きく需要水準を下げた。Appleがトップシェアを奪還し、iPhone部門の売上は四半期過去最高を記録、ASPも前年同期比で100ドル上昇した。一方中国、インド市場でOPPO、Vivoが精彩を欠き、前年同期の販売水準を下回った。躍進を続けた両社にとって4Qは踊り場に過ぎないのか、転換点になるのか予断を許せない状況を迎えている。4QでSmartphone需要の伸びを欠いたことから、2017年全体の販売規模は前年の水準をやや下回った。

フィーチャーフォンは前期の販売台数水準に対して30%の大幅増を記録した。季節性のほかインドのReliance JioによるJio Phoneの投入がグローバルのフィーチャーフォンの底上げに寄与した。ただJio Phoneは限定的な提供に留まるものとみられ、2018年はローエンドSmartphoneに軸足を移す方針とみられる。

2018年1Qの市場見通し

1-3月期の端末販売台数は前期比15%減と見込んだ。Apple、中国メーカーの部材発注状況も弱く、流通在庫の積み増しに注力しているメーカーは見当たらない。1QのリリースモデルではSamsungのフラグシップGalaxy S9/S9+の3月発売が目玉を引く。昨年よりも5週間発売時期を早めており、有力メーカーでは唯一前期の出荷台数を上回るものとみられる。

1QでのOPPO、Vivoの出荷レベルが注目点で、4Qではインド、中国国内でシェアを失ったが、1Qで両国とも一定のシェアを確保できるかが焦点になる。両社は2018年に欧州、アフリカへ進出するが、成果が出るのは下半期以降と予想され上半期は空白域になっている。

2月13日FBIが米上院情報委員会に対しHuaweiとZTEをセキュリティ面で非難、両社に暗雲が漂っている。米国のみならず両社の海外戦略にネガティブな影響を与える可能性がある。

2017年4Q(10-12月)調査結果 目次

1	2017年4Qの端末販売の概況	4	7.1.	Huawei	27
2	1-3月の出荷、販売見通し	6	7.2.	Xiaomi	29
3	2017年4Qの端末販売動向	7	7.3.	OPPO	30
4	2017年4Qのメーカーの動向	8	7.4.	Vivo	31
4.1.	グローバルメーカー / 躍進するHMD Global	8	7.5.	Lenovo	32
4.2.	中国メーカー / Xiaomiの躍進とOPPO、Vivoの失速	9	7.6.	その他中国メーカー	33
4.3.	中国 有力5社でシェアは80%へ	10	7.7.	Mediatekの販売は低迷	34
4.4.	インド フィーチャーフォンJio Phoneが急拡大	11	8	端末各社の出荷計画	35
5	端末販売台数推移(データ編)	12	9	2018年展望	36
5.1.	四半期別全端末の販売台数推移	12	10	2017年4Qのセルラー加入状況	37
5.2.	全端末の年間販売台数推移	13	11	地域別累積加入推移(四半期別)	37
5.3.	四半期別Smart Phoneの販売台数推移	14	12	方式別加入推移(四半期別)	40
5.4.	Smart Phoneの年間販売台数推移	15	13	年間加入推移	43
5.5.	四半期別フィーチャーフォンの販売台数推移	16	13.1.	地域別	43
5.6.	フィーチャーフォンの年間販売台数推移	17	13.2.	方式別	44
6	グローバルメーカーの2017年4Q動向	18	14	主要オペレータ加入者推移	45
6.1.	Samsung	18	14.1.	アジア	45
6.2.	Apple	20	14.2.	西欧	46
6.3.	LG	22	14.3.	東欧	47
6.4.	ソニーモバイル	24	14.4.	北米	48
6.5.	HMD Global	25	14.5.	中南米	48
6.6.	その他のグローバルメーカー	26	14.6.	中東/アフリカ(アフリカ)	49
7	中国メーカーの2017年4Q動向	27	14.7.	主要オペレータ加入者数推移の世界全体に占める推定比率	50